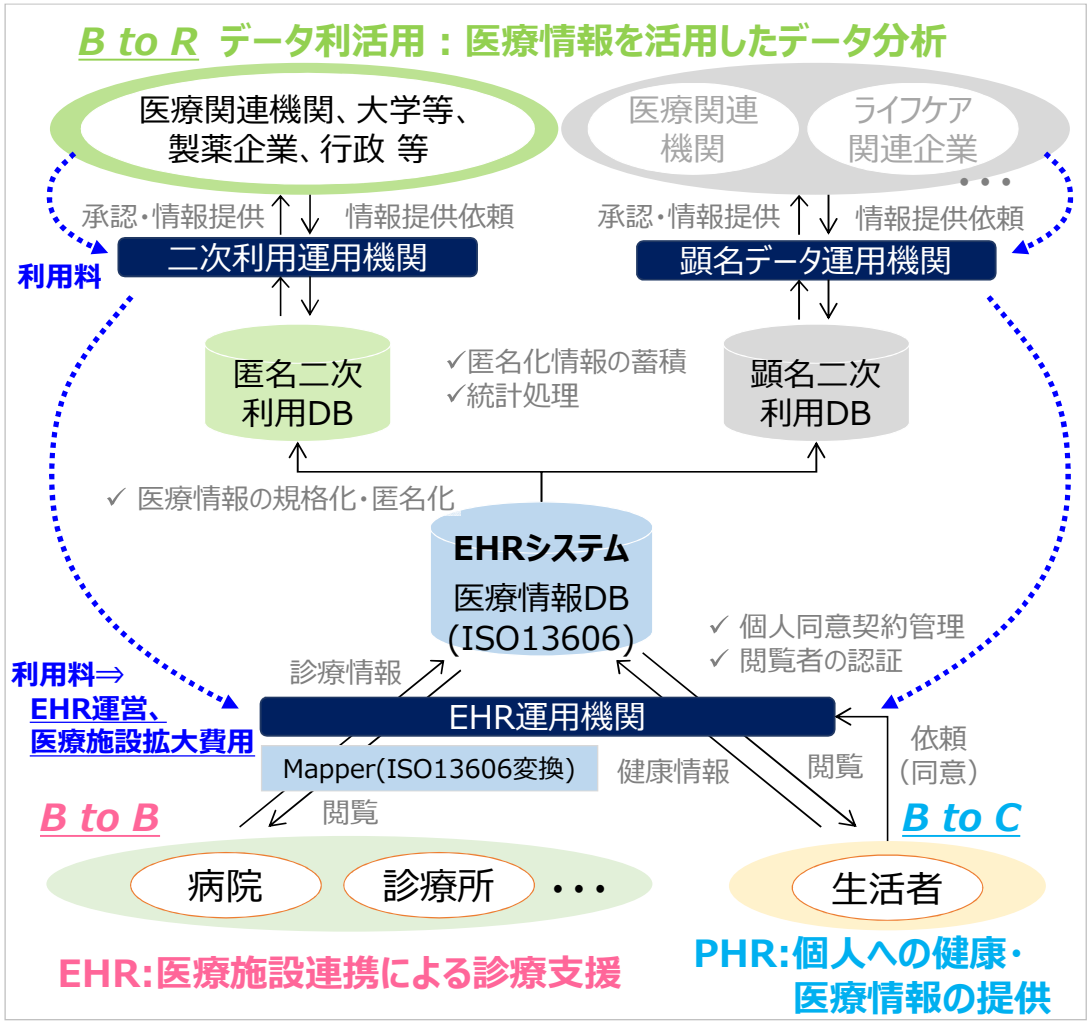
【テーマ】

臨床研究に活用可能な電子カルテ情報の質向上に関する研究



【研究の概要】

大規模な診療データベースを構築する千年カルテプロジェクトでは、平成30年度以降、国の法整備の後に、匿名データの臨床研究への活用を開始する予定である。日常の診療の下で入力された電子カルテ情報が様々な臨床研究に有効に活用されるためには、情報の欠損や精度低下を防ぐ必要がある。本研究は、実際の電子カルテデータを用いてミッシングデータ分析を行うことにより、臨床研究に活用可能な電子カルテ情報の質向上を図ることである。

【千年カルテプロジェクトとは】

AMEDの「全国共同利用型国際標準化健康・医療情報の収集及び利活用に関する研究」の採択を受け、日本医療ネットワーク協会は、平成27年10月1日から千年カルテプロジェクトの具体的な活動に着手している。本プロジェクトでは、宮崎大学と京都大学が主導的な役割を努めており、宮崎では宮崎大学医学部附属病院、宮崎市郡医師会病院、都城市郡医師会病院、県立宮崎病院、県立日南病院、県立延岡病院の計6施設がデータ提供を伴う連携を行う。また、平成31年度以降、国の法整備の後に、匿名データの研究等への活用を開始する予定である。